

ヘビノボラズ *Berberis sieboldii* Miq.

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 11。本地域の湧水湿地を特徴づける準固有種である。

【形態】

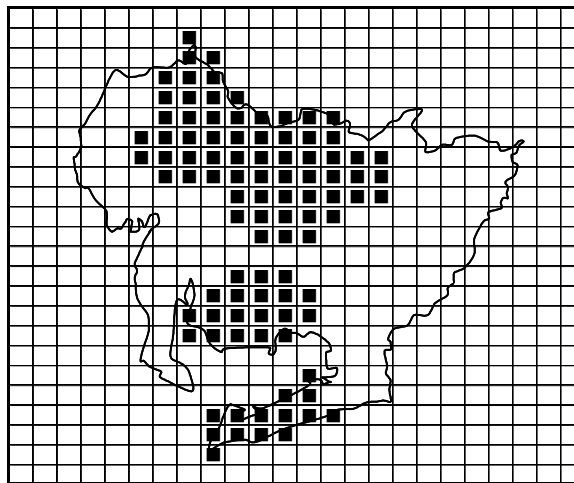
小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5～15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。葉裏は普通緑色であるが、帯白色のものもある。花期は 4～5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつう葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形～やや楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部（芹沢 55011*, 1990-5-22）、18 田原西部（芹沢 58203*, 1991-4-29）。西：20 足助（日比野修 3804, 1996-10-5）、22 小原（日比野修 2684, 1994-10-23）、23 藤岡（芹沢 54918*, 1990-6-17; 日比野修 1460, 1993-7-19）、24 豊田東部（芹沢 75404, 75405*, 1999-4-29）、25 豊田北西部（畑佐武司 1679, 2001-4-29）、30 岡崎南部（芹沢 69088, 1994-5-6）、31 幸田（芹沢 58194, 1991-4-27）、35 西尾北部（芹沢 54129, 1989-11-12）。尾：37a 瀬戸（塚本威彦 2750*, 1998-12-7; 芹沢 80568, 2006-6-3）、45 犬山（芹沢 69241, 1994-5-17）、47 小牧（日比野修 4911, 1999-7-17）、48 春日井（山田果与乃 469*, 1999-4-30）、50 名古屋北部（芹沢 51066, 1989-4-4）。*は葉裏が帯白色の型である。11 作手（東田原、鳥居喜一 5808, 1982-5-27, HNSM）と 16 豊橋南部（大清水、恒川敏雄 s.n.= 鳥居 14608, 採集日不明, HNSM）で採集された標本もある。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手は「中央部の湿地」（鳥居 1982）と報告されており、この辺りという場所も教えてもらったが、確認できなかった。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（東海地方西部、近畿地方）、九州（宮崎県）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところはまだ生育地も個体数も多いが、丘陵地に生育しているだけに開発の影響を受けやすく、次第に減少している。湿地周辺の森林化に伴う被陰によっても衰退している。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。

【特記事項】

鋭い針があってヘビも登れないというので、ヘビノボラズという。しかし、時には刺針がほとんどないものもある。彩色画は 2001 年版 図版 3 に掲載されている。

【引用文献】

鳥居喜一. 1982. 新城（愛知県）からコンニチワ植物の便り(Ⅲ). レポート日本の植物(14):129.

【関連文献】

保木本Ⅱp.174, 平木本Ⅰp.129, 平新版Ⅱp.115, SOS 旧版 p.51+図版 18.